

資料 2

2 今後の課題について

1. 令和5年度のアクションプラン事業の実施状況から

- 昨年度の連携会議の中で、今後の取り組みの方向性として、これまで働きかける機会が少なかった中学生に対し、出前講座や職業講話など【プランP.3 施策番号(2) 小中学校に対する出前講座、インフラ見学会の実施】を開催することで、建設産業を身近に感じ、働きやすくなっている建設産業を知ってもらう機会を数多く提供することとし、公立中学校長会の各支部校長会で説明を行うなど積極的な募集活動を実施することとなった。
- 前年度の課題を踏まえ、今年度、当室で小中学校校長会において説明や募集を行ったところ、小学生（じどう車くらべ）の申し込みは多数あった半面、中学生を対象とした職業講話は、現時点でも要望がない。
- 中学校や高校では、最先端の機器を扱うカリキュラムがなく教員もそれらの活用に関して精通していない。

2. 課題に対する検討

- 中学校ではキャリア教育に関する授業数が限られており、対象業種も商業や福祉など全分野に渡るため、建設産業のみを対象とした説明会等の実施が困難な状況となっている。
- また、中学校の学校行事において、見学会や体験会などを計画する場合は、前年度中に日程を確保する必要がある、あらかじめ事業の概要を学校側に周知しておく必要がある。
- 職業講話は座学主体であるが、これまでの高校生を対象とした一部の建設産業説明会等【プランP.9 施策番号(8) 学科・系列の生徒に対する建設産業説明会の実施】の事業の中で、参加した生徒にドローンやICT等を体験する場を設けたところ、生徒のみならず教員からも好評を得ていた。
- 職業講話という名称から事業内容が固い印象を与えている。

3. 課題への対応策（方向性）

- 建設産業の役割の重要性を認識してもらうためには、災害復旧現場やリニア、主要道路工事など、実際にインフラの工事を施工しているところを生徒に見せ、現地で詳しく説明することが必要であるとの意見もあったことから、職場体験等の実体験の機会の拡充を目指す。
- 中学生、高校生を対象とした事業は、ICT機器を活用した参加者が実際に実演・体験を伴う内容に改める必要がある。